

NO. 2353 【釈迦岳（比良）】

2013年2月24日（日）雪

参加者：岡本（L・記）、嶋原、佐藤

<行程・時間>

9：30 イン谷口→11：10 雄松山山荘道出合→13：05 旧登山リフト道分岐→

15：15 オガサカ道分岐→15：40 北比良峠→17：00 大山口→17：20 イン谷口

佐々木さんに急用ができ、代わり岡本が担当。当初、雪彦山へ行く予定であったが、前日に参加者とも協議し、雪が存分に楽しめそうな、比良、釈迦岳を目指すことにした。

今日は、今冬第一級の寒波が来ていることもあり、大阪でも雪がちらつき、滋賀に入ると大津から雪景色となる、取りあえず目的地のイン谷口まで行く。イン谷口の旧登山リフト方面に少し入ったところにある駐車スペースには、既に4台車が駐まっている。が、予定の大津ワングル道には踏み跡は無かった。

駐車場にもそれなりの積雪もあり、全員、最初からスノシューで出発。登山口から少し入ったところの倒木をスノシューで乗り越え、雪の中を進む。ルートは大体分かっているものの、道が雪で埋まり、また、雪のため景色も見えないことから、慎重に進む。しかし、所々雪だまりもあり、急斜面ではラッセルも必要になり、予想以上に時間を消耗する。登りの中間点を越えた辺りからは、更に雪も深くなり、急な登りも何ヶ所もあり、時々先頭を交代し登る。最後の難関の急斜面を、何とかスノシューを付けたままよじ登る。

スノシューは急な登りには向かないと言われものの、確かに狭い場所や、雪を踏み固めるには不向きかもしれないが、少々急な登りでも爪を上手に使いながら登ると、かなりの急斜面でも何とか登れる。むしろ、狭い急斜面の下りの方が危険を感じることが多い。しかし、今日のような雪の深い日にはスノシューの効果は抜群だ。

とは言いながら、やはりラッセルはしんどい。リフト道への分岐に到着した時には午後1時を過ぎていた。簡単に食事を済ませ、釈迦岳へ向かう。が、かなり雪が深く、少しでも時間を節約する意味で、釈迦岳をトラバースしながらカラ岳方面へと向かう。尾根筋とは言うものの雪がかなり深く、場所によっては体の半分くらい沈んでしまう所もある。雪も止まず、展望も利かないことから、兎も角、方向を外さないように進む。

カラ岳まで来ると、殆ど埋まっているものの、所々に踏み跡の痕跡がある。どうやら、ダケ道辺りを登ってきたグループが、この辺で引き返したようだ。とは言うものの、ルートがはっきりしない為、尾根筋をつたい次郎坊山の方へ進み、そこから、旧比良スキー場の方へ下るルートを取ることにした。

ロープウェイ駅跡に到着した時には、既に3時半になっていた。しかし、ここまでくれば後は北比良峠からダケ道を下りるだけだ。しかも、この辺りは、今日、数グループが来ていたらしく、しっかりした踏み跡がある。ダケ道へ少し下りたところで少し休憩し、後は一気に下山する。久々に雪を満喫でき、嶋原さんは最後までスノシューを履き続けることができ、楽しい、楽しい山行でした。